

『聞こえのセミナー』

～尼崎市聴力障害者福祉協会難聴部～

～平成30年度尼崎市自発的活動支援事業 実施報告～

尼崎市聴力障害者福祉協会難聴部について

団体の概要

【団体設立】 1952年

【会 員 数】 19人

【設立目的】

中途失聴者・難聴者が暮らしやすい社会にするための、支援体制を築く場とする。福祉制度に関する情報提供、同じ障害者との交流や悩みを共有し、QOL向上につなげる活動とする。

～平成30年度尼崎市自発的活動支援事業 実施報告～

実施目的

聞こえに不自由がある中途失聴者・難聴者は、コミュニケーション障害者とも言われている。聞こえによる誤解から人間関係を損なうことが多いため、日常生活において様々な挫折感を味わい、孤立した日々を過ごしている人が多々いる。聞こえないことによる社会的障壁を取り除けるよう、聞こえの補聴援助システムをはじめとする福祉機器や、活用できる福祉制度について学び、聞こえに関する講話を聞くことで各々がQOLの向上を図り、仲間と支援者の連帯と交流を深めると共に、社会活動への参加の意欲を持たせることにより、聴覚障害者の福祉の向上に努める。

実施内容

●兵庫県聴覚障害者情報センター職員・言語聴覚士 岡 恵子氏による講話

テーマ「再び社会の輪の中へ～兵庫県立聴覚障害者情報センターによる難聴事業の取り組み～」

難聴事業とは何か、自身にできることは何か、自分たちで取り組めることができることは何か、兵庫県聴覚障害者情報センターの活動を通して、ヒントを引き出していただいた。

聴覚障害の特性をつかんで、必要な事業を関係団体と共に活動し推進していくことの重要性を話していただいた。

●ワークショップ「難聴事業の取り組みについて思うこと」

講話を聴いて、参加者に配布した付箋に思うことを書いてもらい、回収して黒板に貼っていき、分野別にまとめた。分野ごとに対し、参加者の思いの詳細を語っていただいたり、講師からアドバイスや意見を伺ったり、福祉機器を取り扱う会社や補聴器店による活用提案をいただいたりして情報交換、内容の共有をした。最後のほうには参加者同士で積極的な話し合いになるくらい、交流が進んだ様子が見られた。

●その他

当団体・支援サークル等の活動の紹介、ホワイトボード・耳マークの展示

～平成30年度尼崎市自発的活動支援事業 実施報告～

事業の効果・課題などについて

【対象者】

中途失聴者、難聴者、そのご家族、支援者、ボランティア

【実施時期・回数】

平成31年2月24日(日) 13:00～16:00 1回

【実施場所】

尼崎市立中央公民館 3階 小ホール

【周知方法】

市報、市内公共施設・補聴器店等チラシPR、関係団体SNS等

【参加者数】

総数30人(うち障害者21人、その家族4人、地域住民等5人)



実施して良かった点

- ・自身の障害を受容しつつ、仲間の存在を知ることによって孤独感を解消することができ、参加者同士の交流を深めることができた。
- ・福祉制度等の知識を得て、関係団体や機関との関わりを持つことでQOLの向上につながるきっかけが作れた。
- ・支援者の存在を知り、支援を受けることで、積極的に社会参加ができるという自信を持ってもらうことができた。

反省・課題など

- ・支援者が足りなかったため、参加者への配慮が偏ってしまった。
- ・難聴部だけでは、当事者を行政や関係機関が実施している支援にまでつなげることは難しいと感じた。
- ・1回のみでは十分な議論に繋がれなかったため、ワークショップで出た意見などをどう活かすかを考えていく必要がある。

今後の事業について

- ・行政、関係機関との協力を得て、制度の周知や情報提供の場を設ける。
- ・難聴部として取り組めることを検討していく。
- ・当事者については、手話や要約筆記など自分自身のために利用機会を増やしていただくとともに、その利用状況を広く市民に見ていただくことで、支援者の増加や啓発につなげていきたい。

～平成30年度尼崎市自発的活動支援事業 実施報告～